

---

# 元厨二病患者の高校生活

白鳥隆士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

元厨二病患者の高校生活

### 【コード】

N95700

### 【作者名】

白鳥隆士

### 【あらすじ】

中学卒業と同時に厨二から卒業した男の子のある1日。

(前書き)

友達がふと思いついたらしい漫画の設定を元に筆者が書いた作品。  
何がしたいのかわかりません。

俺はボールを頭の上を通り過ぎ、後ろへ持って構える。足はアキレス腱を伸ばすかのように前後に開き、ゴールを見据え・・・放つ。きれいな放物線を描きながらボールはゴールに吸い込まれていく。それを見届けた後、ゴールの下に転がったボールを拾いに行った。

「ただいま」

いつも通り一人むなしくバスケットをした俺は家へ帰る。

「お帰り」

リビングへ入ると台所で料理を作りながら母さんは俺にそう言う。

「お風呂沸いてるから入ってらっしゃい」

そう言われたので俺は自分の部屋に鞆とボールを置いて風呂に向かう。

汗を洗い流して湯につかりながらふと思つ。

母さんは昔バスケのプロだった。その試合の記録や映像を見て感動し、俺は中学時代の黒歴史的なものから卒業し、バスケにのめり込んだ。

だが、中学時代の俺はそんなことになるとは思ってもよらなかったのだ。適当に近い高校を受け合格した。バスケ部のない高校へ・・・。

俺は絶望した。だが、そんなことでくじけるわけにはいかないと思い、同好会ではあるがバスケット部を立ち上げた。

それから2年。誰も入ることなく時は流れ、ついに最終学年。どうにかしたい。だが、そんな簡単に行けば苦労はしない。そんな背反した二つの思いがぐるぐると心の中で渦巻き、どうしようもなくないそうだったのでそれらを振り払って風呂から出た。

リビングへ戻るとちょうどご飯ができるところだった。

「あ、ちょうどいいわ。ご飯ができたからお父さん呼んできて」  
その言葉に気持ちが更に沈む。あいつを呼びに行かなくてはいけな  
いとわ……だが、尊敬する母さんのためだ。そう思い俺は父さん  
の部屋へと向かう。

「父さん、ご飯できたよ」

ドアをノックして言うが返事はない。こうなることは予測済みだ。  
ドアには鍵などついてないので、勝手に中に入る。そこには……

ヘッドフォンを着け、パソコンの画面を食い入るように見ながら気  
持ち悪い笑みを浮かべる禿げ気味の小太りのおっさんがいた。  
というか俺の父さんだ。何か画面に向かって呟いているが、すべて  
無視しヘッドフォンをはぎ取る。

「あー！ー！！！！なにをするんだ

！！！」

「うるさい！ご飯ができたから呼びに来たんだよ！」  
俺のその言葉で反論の言葉はなくなる。ウチのヒエラルキーのトップにいるのは母さんなのだから仕方ない。

俺は父さんをひきつれりビングに向かい、すでに石についてる母さんに倣って席につき、食べ始める。

いつも通り母さんの美味しいご飯を食べていると、父さんが真っ白な包帯で左腕を何重にも巻いているのが目についた。

「父さん、左腕どうしたんだ？特にケガをしてるようには見えないけど」

普通に茶碗を持ってるし、庇う様な仕種もない。

「これか？これはな、俺の邪気が「ふんっ！」「ぶげらっ！」  
バ力なことを言い出した父さんに右フックを叩き込む。

「こら、食事中にはしたないわよ。やるなら食事の後にしなさい」

「え？母さん、食べ終わったらそんなことしてもいいのかい？」

「うんわかった母さん。ごめん」

「お前も何言っただよ！親父にもぶたれたこと「死ね！」「バビロ  
ンっ！」

「しん」

「ごめん」

何回も同じことを言わせるのには心が痛むのでご飯をしっかり味わ

いつつ、なお且つさつさと食べる。さつきから「二度もぶつたね！」などとバカなことを言ってる父さんを沈めるために……。

食後、家にある小さな庭に頭が下に地面？突き刺さった人型のオブジェクトが誕生した。

明日も朝早くからトレーニングをしなければならない。  
母さんに「お休み」と言っつて自分の部屋に向かい、ベッドに入る。  
目を閉じながら、明日こそは新入部員ができるといいなあと思えつ  
つ、おとずれた眠気に身体を任せた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9570o/>

---

元厨二病患者の高校生活

2010年11月17日03時17分発行